(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-170672
(P2012-170672A)
(43)公開日　平成24年9月10日(2012.9.10)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A61H 7/00	(2006.01)	A61H 7/00	323A	4C100

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 12 頁）

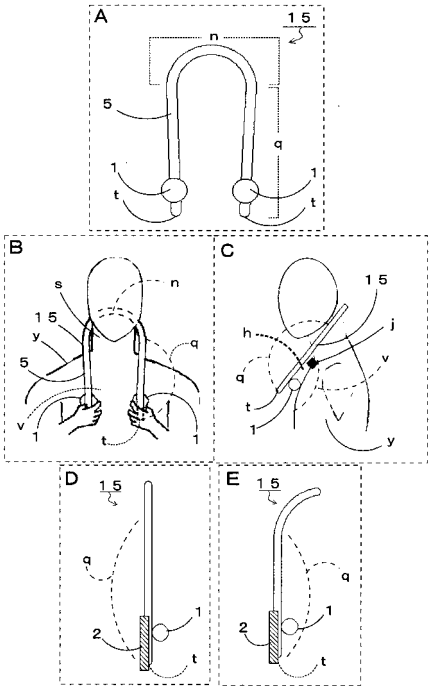
(21)出願番号　特願2011-36650(P2011-36650)
(22)出願日　平成23年2月23日(2011.2.23)

(71)出願人　307048974
高橋　博文
群馬県利根郡みなかみ町後閑４５０番地１
(72)発明者　高橋　博文
群馬県利根郡みなかみ町後閑４５０の１

Ｆターム(参考)　4C100 AD13　AD23　AD26　AD27

(54)【発明の名称】胸及び肩周囲マッサージ器具

(57)【要約】　（修正有）
【課題】人体において胸、肩、首の周辺の体内には、神経や血管、リンパ管などが有ることから、疲労等により張りつめた胸、肩、首の周囲の筋肉の凝りを解して循環を促すことは疲労回復や治癒力の促進に必要なマッサージを、自分自身で行う事ができるマッサージ器具を提供する。
【解決手段】略逆Ｕ字型のフレーム５の湾曲部ｎの内側を首後ろ側に掛けることで、胸の前方位置に来るフレームの両端近傍に胸の方向に向く胸押突起部１を備え、ユーザｙ自身が両端近傍の所定範囲に備えられた把持部２を握り押圧することで、少ない力で効率よく指圧、マッサージ効果が得られる構成とする。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
略逆Ｕ字型に形成されたフレームは、上方が湾曲部であり、その先に左右下方に向かう直線部で形成されており、前記湾曲部の内側を首の後ろ側にあて、前記直線部の端部が胸の前方に垂れ下り、前記直線部又は端部近傍を胸に当接及び把持して用いるマッサージ器具であって、前記直線部又は端部近傍の所定範囲が左右各々の手で握るための把持部とされ、前記直線部又は把持部近傍に胸側に突設された胸押突起部を形成し、前記胸押突起部が胸、肩の周囲を押圧する手段となる事を特徴とするマッサージ器具。
【請求項２】
前記フレーム上の胸押突起部及び／又は把持部がフレーム上の長手方向に移動又は付替え又は回転移動ができることを特徴とする請求項１に記載のマッサージ器具。
【請求項３】
前記フレーム上の直線部と湾曲部の境近傍に前記フレームの内側方向に向い突設された首押突起部を形成し、首の周囲を押圧する手段となることを特徴とする請求項１又は２に記載のマッサージ器具。
【請求項４】
前記フレーム上の胸押突起部及び首押突起部が首と胸を左右から押圧することで、身体の中心を認識できる身体中心認知手段となる事を特徴とする請求項３に記載のマッサージ器具。
【請求項５】
前記フレーム上の胸押突起部及び首押突起部は、先端側が球状面に構成された事を特徴とする請求項１乃至４に記載のマッサージ器具。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、人体に用いるマッサージ器具に関する
【０００２】
ユーザが自分で頸や肩の凝りを解すために用いるマッサージ器具が広く流通している。これらのマッサージ器具は、略逆Ｕ字型のフレームの両端となる直線部位の湾曲部位に近い位置に、前記逆Ｕ字型の両端のフレームが向き合う方向に複数個の球状の突起を備え、ユーザは前記突起を自らの首付近に押し当て、前記逆Ｕ字型のフレームの両端を握って適宜動かすことにより、頸肩部付近の凝りをほぐすものである。
【０００３】
また、特開２００３－１１１８１７においては、マッサージ器具のフレームを略Ｖ字型として、「てこの原理」を用いてより強力なマッサージ効果を期待する発明が提案されている。前記２例に代表されるユーザが自分の力で主に首付近をマッサージするための道具を、人体の他の部位のマッサージ効果を目的とした道具や動力を用いる装置と区別するために、これ以降「簡易マッサージ器具」と表記する。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００３－１１１８１７
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
従来から有る簡易マッサージ器具類は、身体の後ろ側に位置する肩、首などの部位の筋肉の凝りを解す事を目的としたものが多く、その用途はそれぞれ特定の部位に限定して使用するものである。
【０００６】

しかしながら、３０余年にわたり柔道整復師として施術に携わってきた発明者の経験から、肩凝りの症状を訴える患者様のなかには、身体の後ろ側部の肩周囲のみの凝りに限られず、前方側に位置する胸や肩関節部周囲の筋肉が張って固くなり、痛みや、凝りの辛さ等の不快感を訴える方が多く見受けられる。

【０００７】

オフィスでの事務や労働又は、むち打ち等の怪我の後遺症などさまざまなストレスで、張って固くなる筋肉は身体の後ろ側部の筋肉のみとは限らない。身体の前面にある筋肉にも当然おこるものである。

【０００８】

上記の様に張って固くなった筋肉の周囲にある血管や、リンパ管、神経は、圧迫され流れが悪くなり、疲労の回復、治癒能力の低下を招く事が考えられる。したがって身体の後ろ側の筋肉のみならず、前方側の胸、肩の周囲の筋肉も手軽に他人の手を借りずに毎日マッサージができる事が好ましいが、自身で胸の周囲の指圧やマッサージをすることは、なかなか困難といえる。

【０００９】

現時点において身体前面の胸、肩の周囲の筋肉を対象としたマッサージ器具は提案されていない。また、一つの簡易マッサージ器具で複数箇所の部位に同時に指圧又はマッサージ効果を与えられる器具は提案されていない。

【課題を解決するための手段】

【００１０】

そこで、上記課題を解決するため本発明は、（１）略逆Ｕ字型に形成されたフレームの上方が湾曲部で、その先が左右下方に向かう直線部で形成されているマッサージ器具の湾曲部の内側を自らの首の後ろ側にあてることで、胸の前方に垂れ下がった直線部又はその端部近傍に胸側に突設された胸押突起部を胸に当接して、前記直線部又は端部近傍の所定範囲に設けられた把持部を左右各々の手で握り押すことで、前記胸押突起部により胸、肩の周囲を押圧する手段を備えた事を特徴とするマッサージ器具により解決するものである。

【００１１】

（２）また、前記フレーム上の胸押突起部及び／又は把持部がフレーム上の長手方向に移動又は付替え及び回転移動ができることを特徴とする（１）に記載のマッサージ器具により解決するものである。

【００１２】

（３）さらに、前記フレーム上の直線部と湾曲部の境近傍に前記フレームの内側方向に向い突設された首押突起部を形成したマッサージ器具により、首の周囲を押圧することができることを特徴とする（１）及び（２）に記載のマッサージ器具により解決するものである。

【００１３】

（４）さらにまた、前記フレーム上の胸押突起部及び首押突起部が首と胸を左右から押圧することで、身体の中心を認識できる身体中心認知手段となる事を特徴とする（３）に記載のマッサージ器具により解決するものである。

【００１４】

（５）加えて、前記フレーム上の胸押突起部及び首押突起部は、先端側が球状面に構成された事を特徴とする（１）乃至（４）に記載のマッサージ器具により解決するものである。

【発明の効果】

【００１５】

他人の手を借りる事無く、ユーザ自身が略逆Ｕ字型に形成されたフレームの湾曲部の内側を自身の首の後ろ側に掛け、胸の前方に垂れ下がった左右のフレームの直線部又は端部近傍の把持部を夫々左右の手で握り押圧することで、胸の方に向いて突設された胸押突起部により胸の周囲に指圧、マッサージ効果をもたらす。

【００１６】

また、前記フレームに首の方に向いて突設された首押突起部を設ける事で、首の後ろ側の筋肉にも同時に指圧、マッサージ効果をもたらす。

【００１７】

更に、フレーム右側の把持部を左手で握り右肩関節部の前面に移動して、胸押突起部で右肩前面周囲を押圧することで指圧、マッサージ効果をあたえる事ができる。左肩に対しては、左側に位置する胸押突起部で効果を与える事ができる。

【図面の簡単な説明】

【００１８】

【図１】本発明によるマッサージ器具１５を用いて押圧できる部位を表す図である。

【図２】本発明による請求項１に記載のマッサージ器具１５を説明する図である。

【図３】マッサージ器具を構成する胸押突起部１及び把持部２を説明する図である。

【図４】請求項２に記載のマッサージ器具１５の構成を説明する図である。

【図５】本発明によるマッサージ器具１５の使用例を表す図である。

【図６】請求項３に記載のマッサージ器具１５の構成及び使用例を説明する図である。

【図７】請求項４に記載のマッサージ器具１５の使用例を説明する図である。

【発明を実施するための形態】

【００１９】

本発明のマッサージ器具を説明するにあたり、図１により当該マッサージ器具を用いて押したり、摩ったりする（これ以降、「押圧」と表記する）ことで、指圧、マッサージ効果を与える事ができる部位の筋肉、並びに内部の解剖学的な構造を簡単に表し、押圧を行う事の必要性について以下説明する。（背部、腰部に関しては、従来からいくつもの事例がある事で省略）

【００２０】

図１Ａは、胸及び肩関節部周囲の筋肉を表している。（ここでは大胸筋ａ、小胸筋ｂ、三角筋ｃのみ表記）、　図１Ｂは、首の後ろから側方にある筋肉を表している。（ここでは中層筋群の一部である僧帽筋ｄ、胸鎖乳突筋ｅのみ表記）、図１Ｃは、胸の小胸筋ｂの下部を通る血管を説明する図である。（ｆが鎖骨下動脈、ｇが鎖骨下静脈である。）図１Ｄは、胸部及び肩関節部の周囲内部を通る神経を説明する図である。図１Ｅは、内部を通るリンパ管やリンパ節の走行を表したものである。（名称省略）

【００２１】

図１Ａ～Ｅの中で、点線で囲い表した範囲が当該マッサージ器具３０の特徴により簡単に押圧することができる部位である。

【００２２】

説明をする上で、前記点線の範囲を図１Ａに示すように、（１）の範囲を「胸の周囲」、（２）の範囲を「肩の周囲」、（３）の範囲を「首の周囲」と表記する。

【００２３】

（１）の「胸の周囲」は胸や腋の下、（２）の「肩の周囲」は肩の前面、上腕の前面、（３）の「首の周囲」は首の周り、鎖骨周辺等を含むものとして説明する。

【００２４】

上記（１），（２），（３）の範囲の筋肉を押圧することで刺激を与え、筋肉の凝りを解す事により、図Ｃ，Ｄ，Ｅに示した点線の範囲の中にある神経、血管、リンパ管などの流れを改善することで、疲労回復、治癒力の促進をはかる事が期待できる。

【００２５】

本発明のマッサージ器具１５の構成並びに使用方法について例をあげて以下、説明する。

【００２６】

図２に示したものは、請求項１に記載のマッサージ器具１５の構成を表したものである。

【００２７】

図２Ａに示したものは、マッサージ器具１５を正面から見たものを表している。該マッサージ器具１５は、略逆Ｕ字型に形成されたフレーム５の、上方が湾曲部ｎであり両端に向かって左右が直線部ｑとなっており、前記直線部ｑと、その端部ｔの近傍に胸押突起部１

を備えている。
【００２８】
前記胸押突起部１を図２Ｂ、Ｃを用いて説明する。ユーザｙがマッサージ器具１５を使用している様子を図２Ｂは正面から、図２Ｃは側方から見た模様を表している。
【００２９】
図２Ｂに表すように、フレーム５の湾曲部ｎの内側をユーザｙの首ｓの後ろ側に掛けたときに、図２Ｃに表すように、前記直線部ｑ又はその端部ｔ近傍の部位に、ユーザｙの胸ｖの方向に向かい、突起するように設置（これ以降、「突設」と表記する。）されたものである。
【００３０】
前記胸押突起部１がユーザの胸側に向いて突設された事と、前記直線部ｑ又はその端部ｔ近傍の部位に突設されていることが本発明のマッサージ器具１５の重要な特徴となる。
【００３１】
図２Ｄはマッサージ器具１５を側方から見たものを表している。前記胸押突起部１は約２～４センチメートル程度に突起させる事が好ましく、約３センチ程度が望ましい。
【００３２】
約３センチメートル程に突起させる事により、図２Ｃに表すように、胸押突起部１を胸ｖに押し付けても、フレーム５と胸ｖとの間に空間ｈが開き、フレーム５が鎖骨ｊに当たること無く、胸の周囲を押圧することができる。
【００３３】
前記胸押突起部１が突設された面と反対の面の直線部ｑとその端部ｔ近傍の所定範囲が、ユーザ自身が手で握るための把持部２となっている。
【００３４】
図２Ｂを用いて前記マッサージ器具１５の使用方法を説明すると、略逆Ｕ字型に形成されたフレーム５の上方に位置する湾曲部ｎの内側を、ユーザｙの首ｓの後ろ側に掛け、湾曲部ｎの左右の下方先端部に向かって位置する直線部ｑ又は端部ｔ近傍に胸側に向かって突設された胸押突起部１をユーザｙの胸ｖに当接して、直線部ｑ又は端部ｔ近傍の所定範囲の把持部２を左右各々の手で握り、胸ｖに当接した胸押突起部１で胸、肩の周囲を押圧する手段とするマッサージ器具１５である。
【００３５】
前記マッサージ器具１５の大きさを、図２Ａを用いて説明すると、フレーム５の長さは約２５～３５センチメートル、幅約１２～１８センチメートル、湾曲部ｎはフレームの内側が、曲率半径約６～８センチメートル程に湾曲した構成のものが好ましく、湾曲部ｎの先から胸押突起部１までの距離は約２０～３０センチメートル程度にすことが望ましく、湾曲部ｎの内側を首ｓに掛けた場合にフレーム５の左右の直線部ｑとその端部ｔ近傍に突設された胸押突起部１が胸ｖの前方に届く様に構成したものである。
【００３６】
前記マッサージ器具１５のフレーム５は、略逆Ｕ字型に形成された湾曲部ｎの部位は両端に向かう直線部ｑを開いたり、閉じたりすることで負担がかかることから、繰り返しの使用により破損しない強度と耐久性に優れた素材を選定することが好ましく、プラスチック等の可塑性を持つ化学素材や、竹などの天然素材の使用が考えられる。
【００３７】
例として、前記フレームは素材をプラスチックとして、一辺の長さが約１～２センチメートル程の角棒を逆Ｕ字型に曲げたものとする。
【００３８】
前記フレーム５に設ける胸押突起部１の素材は、プラスチックなどの化学素材や木、石などの天然素材が使用できる。その他、マイナスイオンや遠赤外線、磁気などの癒し効果があるのではないかと俗に言われている材質を使用することも考えられる。
【００３９】
前記胸押突起部１はフレーム５と一体型でも良いが、別途取り付ける物も考えられる。

【００４０】
前記マッサージ器具１５は図２Ｅの様に側方から見ると、フレーム５が曲線形状を伴った構成のもなども考えられる。
【００４１】
図３により、前記胸押突起部１及び把持部２の部位の形状及び構成について説明する。
【００４２】
図３Ａに示したものは、前記胸押突起部１を側方から見た模様を表している。前記胸押突起部１は２～４センチ程度に突設され、約３センチメートル程に突設されることが望ましく、先端側が直径約２～４センチ程の球状面に形成されたものを表している。
【００４３】
図３Ｂに表したものは、前記図３Ａに示した胸押突起部１を先端の方向から見た模様である。
【００４４】
前記胸押突起部１の形状は色々と考えられるが、デザインや、実用性を考慮して決めることが好ましく、使用時にユーザｙが極端な痛みを感じるような鋭利な形状は避ける事が望ましい。
【００４５】
図３Ｃは前記胸押突起部１の反対の面に形成される把持部２を説明するものである。
【００４６】
前記把持部２は、フレーム５自体を把持して使用する事も考えられるが、ユーザが手で握りやすい形状や大きさにする事が好ましく、図３Ｃに表すような、長方形型や、かまぼこ型、半円筒型、球状型など様々な形状が考えられる。
【００４７】
前記把持部２の大きさは、長方形型を例にすると、縦、約２～５センチメートル、横、約２～５センチメートル、長さ約８～１５センチメートル程度にすることが好ましく、フレーム５の一部でも、あるいはフレーム５に別途取り付けるものでも良い。
【００４８】
また図３Ｄに示したものは、胸押突起部１と把持部２が一体になっていて、その中央付近にフレームを差し込むための円筒状の穴が施されたものである。前記穴にフレームの端部方向を円柱状にしたものを差し込み、円柱状にしたフレームを軸として、回転させることで、ユーザは、マッサージ器具１５を首に掛けたままの状態で前記胸押突起部１と把持部２を換えることができる構成である。
【００４９】
さらに、前記胸押突起部１と把持部２が一体化した、図３Ｅに表すドーナッツ形の物体をフレーム５の左右の直線部ｑとその端部ｔ近傍に突設する構成も考えられる。
【００５０】
前記把持部２の素材は、プラスチックなどの化学素材や木などの天然素材が考えられるが、実用性を考慮して、中空構造にするなどで重量を軽くすることや、把持部２の内部にバイブレータなどの機械仕掛けで動く機能を装備することで、押圧する手段による刺激のほかに振動する刺激を加える手段などが考えられる。
【００５１】
また、把持部２の表層面ｚをマッサージに適した硬さや形状にする事で、胸押突起部１の設置された面と反転して使用する事で、請求項２に記載したマッサージ器具となる。
【００５２】
さらに、前記胸押突起部１及び、又は把持部２はフレーム５の長手方向に移動することや、違う位置に付け替えができることで請求項２に記載のマッサージ器具となる。その構成について図４を用いて説明する。
【００５３】
図４Ａ及び４Ｂに表したものは、前記フレーム５の直線部ｑの端部ｔ近傍を側方から見た模様を表している。

【００５４】
図４Ａに表すように、胸押突起部１及び把持部２が移動できる構成を説明するものである。その構成は、フレーム５に設置する胸押突起部１にオスネジｐを付け、フレームの中央部にオスネジｐの直径程の切込みｏを入れて、切り込みｏの間にオスネジｐを通してフレーム５の反対側へ抜く、反対側に抜けたオスネジｐを把持部２に設置したメスネジｒで受ける。ネジを締めて固定、緩めて切り込みｉの間で移動させる仕組みに構成したものである。
（オスネジ、メスネジの設置は逆も可）
【００５５】
図４Ｂに示したものは、突起部を別の部位に移動できる構成を説明するものである。フレーム５の異なった部位の複数箇所にメスネジｒを設置して、オスネジｐを備えた胸押突起部１をねじ込み固定し、緩めて取外し、別の部位に移動できる構成にする事で各ユーザの体型や使用部位に合わせられるように調節できるものである。
【００５６】
また、図４Ｃに表すように、胸押突起部１が突設された場所と違う位置に更に付属突起部４を設けることも考えられる。前期付属突起部４は、図４Ｄに表すように、把持部２を設置した側の面に突設する構成なども考えられる。
【００５７】
上記付属突起部４を突設する事で、フレーム５の胸押突起部１と把持部２を設置した面を反転して使用する事ができる。例えば、ユーザｙが左右の把持部２を夫々握り、押圧すことで球状形の胸押突起部１が胸に指圧効果をもたらし、面を反転させて、胸押突起部１の周辺を夫々握り押圧する事で、かまぼこ型の把持部２の刺激により胸の周囲にマッサージ効果をもたらす等の使い分ける事ができるものである。
【００５８】
前記付属突起部４の形状は胸押突起部１の形状と同形状又は異形状の物を設置する事や、大きさや材質の違うものを付け替える構成にするなど考えられるが、設置する部位により押圧する対象部位が其々に違う事で、対象とする部位に的確な刺激を与えられる形状とする事が望ましい。
【００５９】
また、上述した其々の突起部の突設された方向や位置が、従来の簡易マッサージ器具とは違う特徴を活かすことで、従来では簡単にマッサージ効果を与える事の出来なかった部位を押圧する事ができる事も本発明のマッサージ器具１５の利点であることから、その利点を活かした使用例を図５により幾つか説明する。
【００６０】
図５Ａは、左肩の周囲を押圧する模様を表したものである。ユーザｙは右手で把持部２を握り、左肩関節部ｋの前面に胸押突起部１を移動して押し当て押圧する事や、左側の胸押突起部１の近傍を握り押圧する事で、左肩の周囲に指圧、マッサージ効果をあたえることができる。（左右変えることで、右肩の囲部も可能）枕を使用して横向きに寝て行うとより効率的に押圧でき、俗に四十肩、五十肩などと称される傷病や、怪我の後遺症などの症状の緩和や機能回復を期待できる。
【００６１】
図５Ｂは、付属突起部４の設置されたマッサージ器具１５により首の前側周辺や顎の周辺を押圧している模様を表したものである。付属突起部４を上方に向けると、顎の下や横にある筋肉（例、舌骨上筋群）など押圧できる。付属突起部４を下方に向けると、鎖骨の上の首の付け根の部分を押圧することができる。
【００６２】
図５Ｃは、マッサージ器具１５を上下逆さに持って、胸押突起部１を顔面の「こめかみ」の部分に当て、押圧している模様を表している。顎の関節などにも使用することができる。
頭痛や顎関節症などの症状緩和等に使用できる。

【００６３】
図５Ｄに表したものは、ユーザｙがソファーや車の座席に腰を掛けた模様である。マッサージ器具１５をユーザｙの背中と椅子の背もたれの間に挟むことで腰部や背部を押圧する手段となる。長時間のイスに腰を掛けた状態による背中、腰などの凝りの解消手段として使用できる。
【００６４】
以上のように、マッサージ器具１５は、突起部の突設する方向の特徴やマッサージ器具全体の大きさなどの構成により、一つの器具で数通りに使用できる事なども従来の簡易マッサージ器具には中々無い便利な機能となる。
【００６５】
図６は請求項３に記載のマッサージ器具１５の構成と使用例を説明するものである。
【００６６】
図６Ａは請求項３に記載のマッサージ器具１５を正面から見たものを表している。略逆Ｕ字に形成された、フレーム５の湾曲部ｎと直線部ｑとの境近傍にフレーム５の内側の方向に向かい左右対称に突設された首押突起部３を設けた物である。
【００６７】
ユーザｙを後方から見た模様を表す図６Ｂを用いて、前記首押突起部３について説明する。図２Ｂで詳述したように、ユーザｙがフレーム５の湾曲部ｎの内側の方向を、首ｓの後方に掛けるが、フレーム５の湾曲部ｎと直線部ｑとの境近傍にフレームの内側方向（首ｓの方向）に向け設置した首押突起部３が、首ｓの後方に引っ掛かり、湾曲部ｎの内側が首ｓ後方に接触しない様に構成したものである。
【００６８】
上記構成にする事で、ユーザｙが左右の把持部２を夫々握り、開いたり、閉じたりする事で、左右に突設された前記首押突起部３の間隔も連動して、広がったり、狭まったりする事で、首ｓの後方にある筋肉を挟み、把持部２を下方又は前方の方向に引く様な力と開いたり閉じたりを組み合わせて行う事で、捏ねる様な押圧手段となる。
【００６９】
更に、上記の構成にする事で、請求項５に記載の「てこの原理」を利用したマッサージ器具１５とする事ができる。前記マッサージ器具１５を、図６Ａを用いて説明すると、全体の大きさは、長さを約２５～４０センチメートル程度とする事が好ましく、約３５センチメートル前後が望ましい。付属される前記首押突起部３の材質及び形状は、前述した胸押突起部１と同様の物を使用できる。
【００７０】
また、前記胸押突起部１及び把持部２，首押突起部３を突設する位置は、左右対称である事が望ましい。
【００７１】
前記マッサージ器具１５を用いてユーザｙがマッサージをする事で得られる効果について図６Ｃで説明する。（マッサージ器具１５に設置される胸押突起部１及び首押突起部３は左右対称の物とする。）
【００７２】
図６Ｃは、ユーザｙが立位又は座位で前記マッサージ器具１５を使用している模様を表している。前述した胸押突起部１により胸の周囲を押圧する事で略同時に、首押突起部３により首後ろ側の筋肉にも押圧する力が加わり、２カ所の筋肉を一度で押圧することができる。
【００７３】
図６Ｄはユーザｙが枕を使用して仰向けに寝た状態で、マッサージ器具１５を使用している模様を側方から見たものを表す。図を用いてマッサージ器具１５をユーザｙが使用した場合にマッサージ器具１５に働く力により起こる「てこの原理」を説明する。
【００７４】
頭の重さがマッサージ器具１５に加わると、ユーザｙの首ｓ後方により首押突起部３は、

下方に押されると同時に、フレーム５の湾曲部ｎの側縁部が枕に押され、首押突起部３が支点となり、胸押突起部１は下方向へ力が掛り胸ｖを押圧する。

【００７５】

例としてフレーム５の長さが、３０センチ、湾曲部ｎから首押突起部３までの距離１０センチメートル、首押突起部３から胸押突起部１までの距離が２０センチと仮定したて、頭の重さ４キロが下方向かいフレームの湾曲部ｎを押した場合、その２分の１の力が胸ｖに掛かることになる。（ここでは実際の数値ではなくあくまでも理論上参考に記す。）事から胸の部位への押圧効果も十分といえる。

【００７６】

図６Ｅに表すように、リクライニングシートや背もたれの高いソファーに腰をかけた場合での使用においてもユーザｙ自身が頭を後部に押し付ける力を加減することで、「てこの原理」が働き効果が得られる。

【００７７】

以上のように、マッサージ器具１５に「てこの原理」が働く使用の仕方により、ユーザｙは把持部２を握らなくても、頭部を後ろ側に押し付ける強さや、頭部を左右に振るなどの動作により首の周囲に押圧ができる事で、ハンドフリーによる首、胸押圧手段となる。

【００７８】

上述したように、首押突起部３を設けることで、従来の簡易マッサージ器具では出来なかった一つ操作で複数箇所略同時に効率よく刺激を与えることや、ハンドフリーでの使用が出来る物となる。

【００７９】

なお、図６で詳述した様に、マッサージ器具１５は、「てこの原理」により図７Ａに表すように、フレーム５の端部ｔの胸押突起部１が左右の対称位置で胸を圧迫して刺激を与え、首押突起部３が首ｓ後ろ側の部位を左右対称の位置で挟み刺激を与えることで、ユーザｙは首の左右と、胸の左右の位置を認識することができ、身体の左右の傾きや、首の左右の傾きを意識的に調節する事の手助けとなる。

【００８０】

図７Ｂにより更に説明すると、マッサージ器具１５の胸押突起部１及び首押突起部３が上半身を４部位（ａ，ｂ，ｃ，ｄ）で支持する事で、身体の傾きを認識でき、正中線ｘ上に左右対称になる様に姿勢を調節して、真直ぐの姿勢を保つ事が容易にできる。したがって、長時間姿勢良く過ごす事ができることで請求項５に記載の身体中心認知手段と成る。

【００８１】

例えば、ユーザｙがソファーや、リクライニングシートの背もたれに寄りかかり、正面にある映像媒体を視聴するときや、車での長時間のドライブなど、助手席や後部座席で姿勢良くバランスを保つ事ができ、同時に指圧効果をも得られる事で疲労防止、疲労回復などの効果が期待できる。

【００８２】

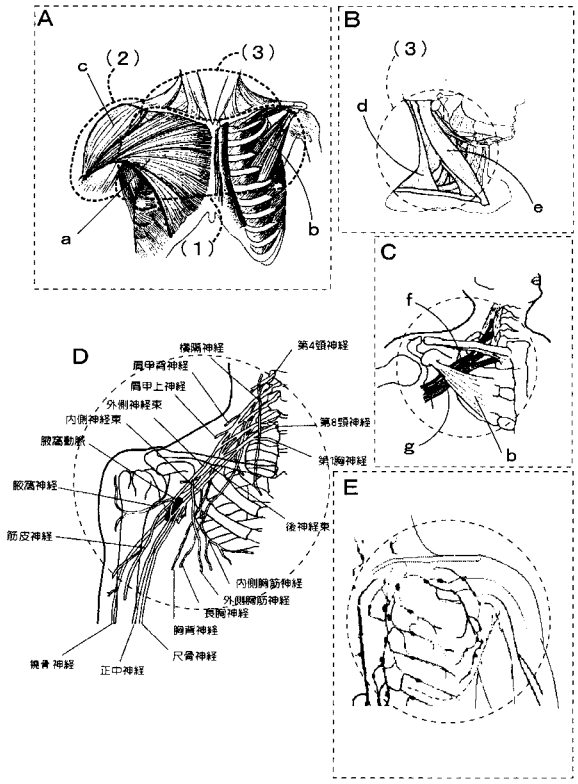
また、図７Ｃに示すように、ユーザｙが仰向けに枕を使用して寝た場合、真っ直ぐの姿勢を意識的に保つ事が可能である。把持部２の部位を約１５センチメートル程度長くした構成にすると、ユーザｙは把持部２の部位に手をかけ易くなる。把持部２の部位を抱え込むようにして腕組み等をする事により、身体を真直ぐの姿勢で長時間保つことができる事で身体中心認知手段と成る。

【符号の説明】

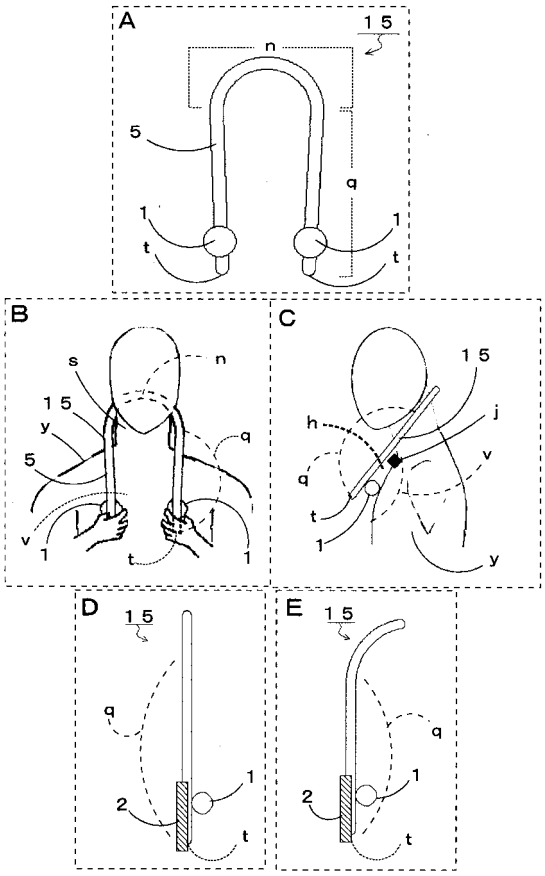
【００８３】

１５…マッサージ器具
１…胸押突起部
２…把持部
３…首押突起部
４…付属突起部
５…フレーム

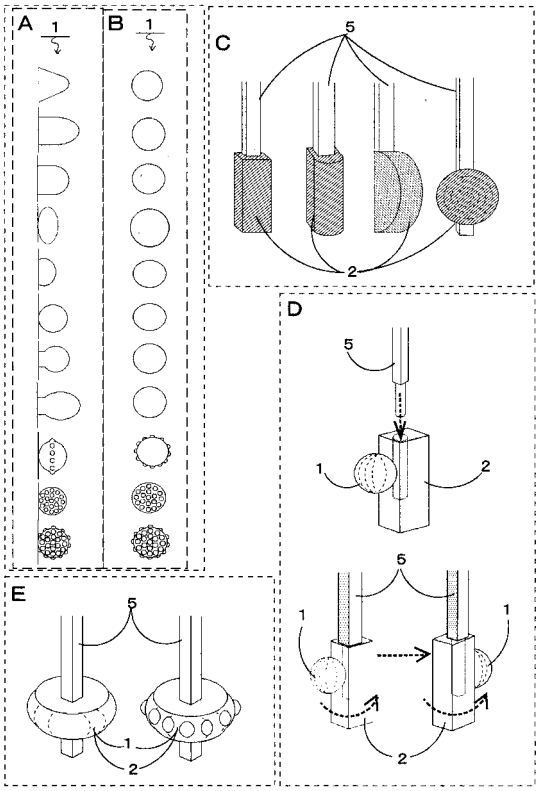
【図１】


A
(2)
(3)
c
a
(1)
b
B
(3)
d
e
C
f
e
g
b
D
横隔神経
肩甲背神経
肩甲上神経
外側神経束
内側神経束
腋窩動脈
腋窩神経
筋皮神経
第4頸神経
第6頸神経
第1胸神経
後神経束
内側胸筋神経
外側胸筋神経
長胸神経
胸背神経
橈骨神経
正中神経
尺骨神経
E

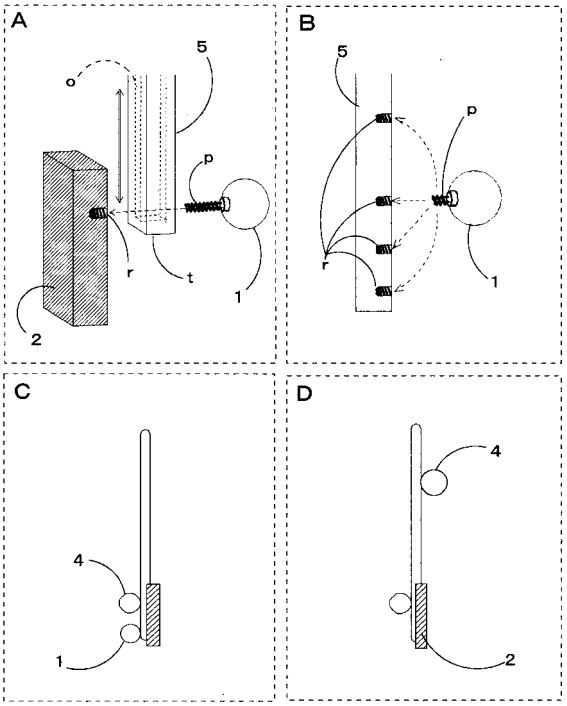
【図２】


A
15
n
5
q
1
t
B
s
n
15
y
5
q
v
1
t
C
15
h
j
q
v
t
1
V
y
D
15
q
1
2
t
E
15
q
1
2
t

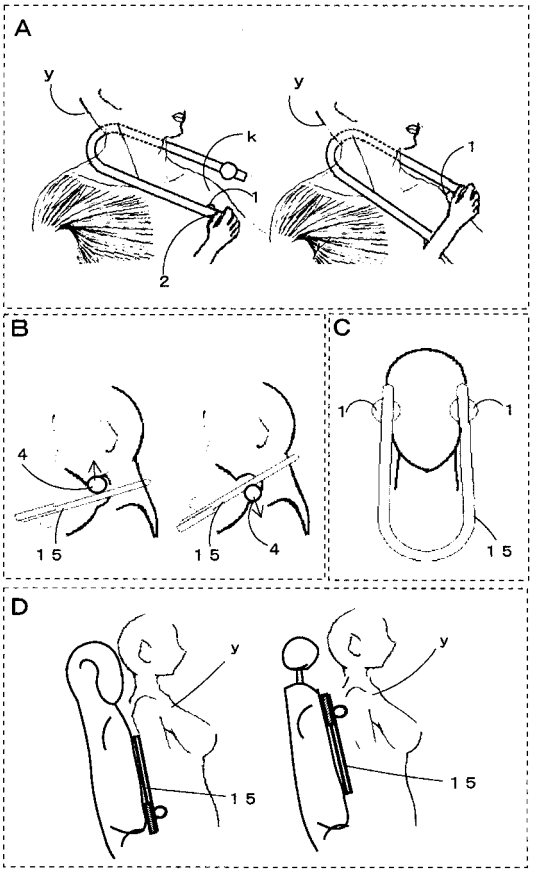
【図３】


A
1
B
1
C
5
2
D
5
1
2
5
1
1
2
E
5
1
2

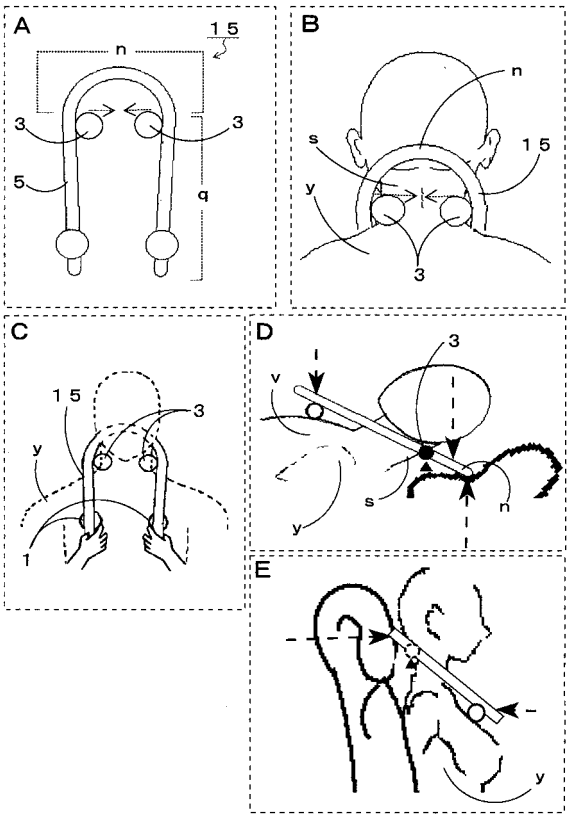
【図４】


A
o
5
p
r
t
1
2
B
5
p
r
1
C
4
1
D
4
2

【図５】


A
y
k
1
2
y
1
B
4
15
15
4
C
1
1
15
D
y
15
y
15

【図６】


A
15
n
3
3
5
q
B
n
s
15
y
3
C
15
3
y
1
D
3
v
s
n
y
E
y

【図７】

